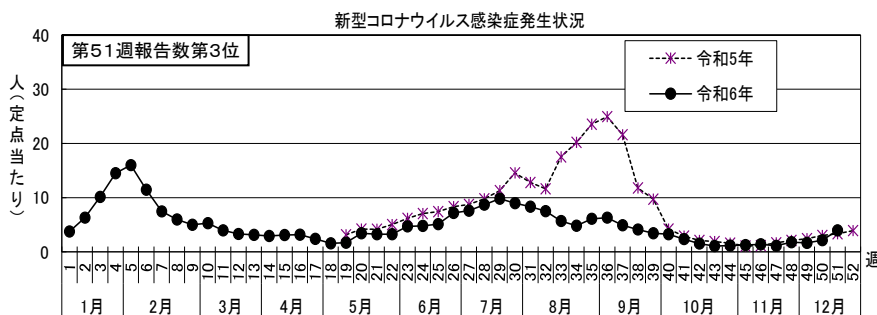
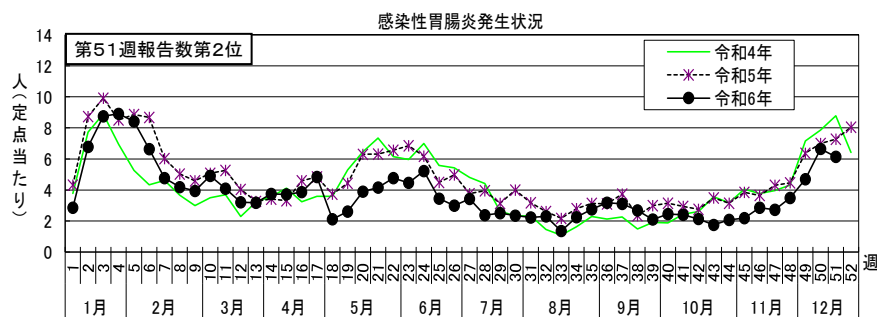
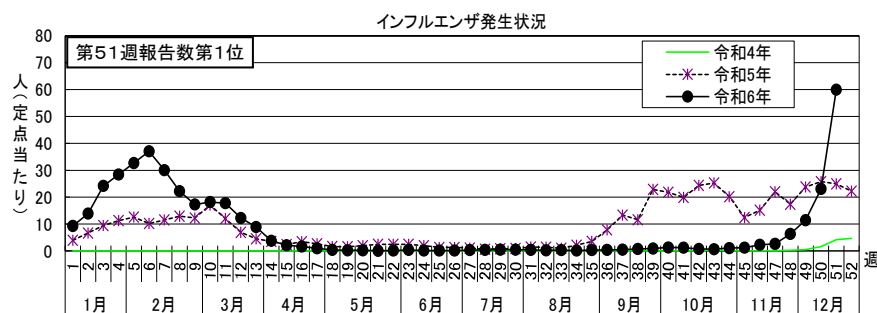


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年12月16日（月）～令和6年12月22日（日）〔令和6年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は59.92人と前週（23.02人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.14人と前週（6.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.97人と前週（2.15人）から増加しました。



インフルエンザの流行発生警報発令！～入院患者も急増しています～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和6年第51週（12月16日～22日）に59.92人となり、流行発生警報基準値（定点当たり30.00人）を超えました。さらに、基幹定点からの入院患者の報告数も定点当たり7.00人と、前週（2.00人）から急増しています。

本市のリアルタイムサーベイランスにおいても、12月中旬以降患者数の急激な増加がみられており、第51週は、特に宮前区において医療機関当たり報告数が多くなっています。

インフルエンザは高熱が続くだけでなく、肺炎や脳炎等を合併することもあります。症状の変化には十分注意し、悪化する場合は早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）

